

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成26年6月12日)

- 1 北条道路の事業再開に向けた計画段階評価の状況について
【道路企画課】・・・1ページ
- 2 平成26年度 第1回湖山池会議の概要について 【河川課】・・・4ページ
- 3 鳥取空港のリモート化について 【空港港湾課】・・・5ページ
- 4 大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」境港初寄港について
【空港港湾課】・・・6ページ
- 5 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
【道路建設課・空港港湾課】・・・7ページ

県土整備部

北条道路の事業再開に向けた計画段階評価の状況について

平成 26 年 6 月 12 日
道 路 企 画 課

国土交通省社会資本整備審議会道路分科会中国地方小委員会（以下「小委員会」という。）では、「北条道路」全線の事業再開に向けた計画段階評価を実施中です。

このたび、6月2日に2回目の審議が行われ、平成26年1～2月に実施された第1回意見聴取結果の報告と、「一般道の一部利用する案」及び「全線自動車専用道路とする案」の2つのルート帯案が示されました。

今後、「ルート帯案」と「インターチェンジ」等に対する意見聴取（地域住民等へのアンケート及び沿線自治体等へのヒアリング）が実施されます。

1 社会資本整備審議会中国地方小委員会の概要

(1) 第1回意見聴取（H26年1～2月）の結果

〔交通課題〕

全回答者の6割以上が、「高速道路が途切れているため走りにくい」「交差点の出入車両が多く危険」「通過交通と地域内交通の混在」と回答

〔地域が道路に求める機能・役割〕

全回答者の7～8割が、「通過交通と地域内交通の分離」「交通事故を少なく出来ること」「救急搬送の円滑化」が必要と回答

〔意見聴取結果を踏まえた政策目標〕

「安全性の向上」「救急医療への速達性、確実性の確保」「産業の活性化」
「観光振興の促進」「通行止め時に機能するネットワークの確保」

〔政策目標を達成するルート帯案（別紙参照）〕

〈案1〉一般道一部利用（道路改良＋自動車専用道路）

・道路改良：西側6.5kmの区間

・自動車専用道路：東側7.0kmの用地買収及び盛土等に事業着手済の区間

〈案2〉全線自動車専用道路

(2) 第2回意見聴取(案)

ア 実施期間：平成26年7～8月頃（先例より想定）

イ 意見聴取内容：「ルート帯案」、「インターチェンジの設置」

ウ 聴取方法：〈〈アンケート〉〉 地域住民、企業及び団体、道路利用者
〈〈ヒアリング〉〉 関係団体、沿線自治体等

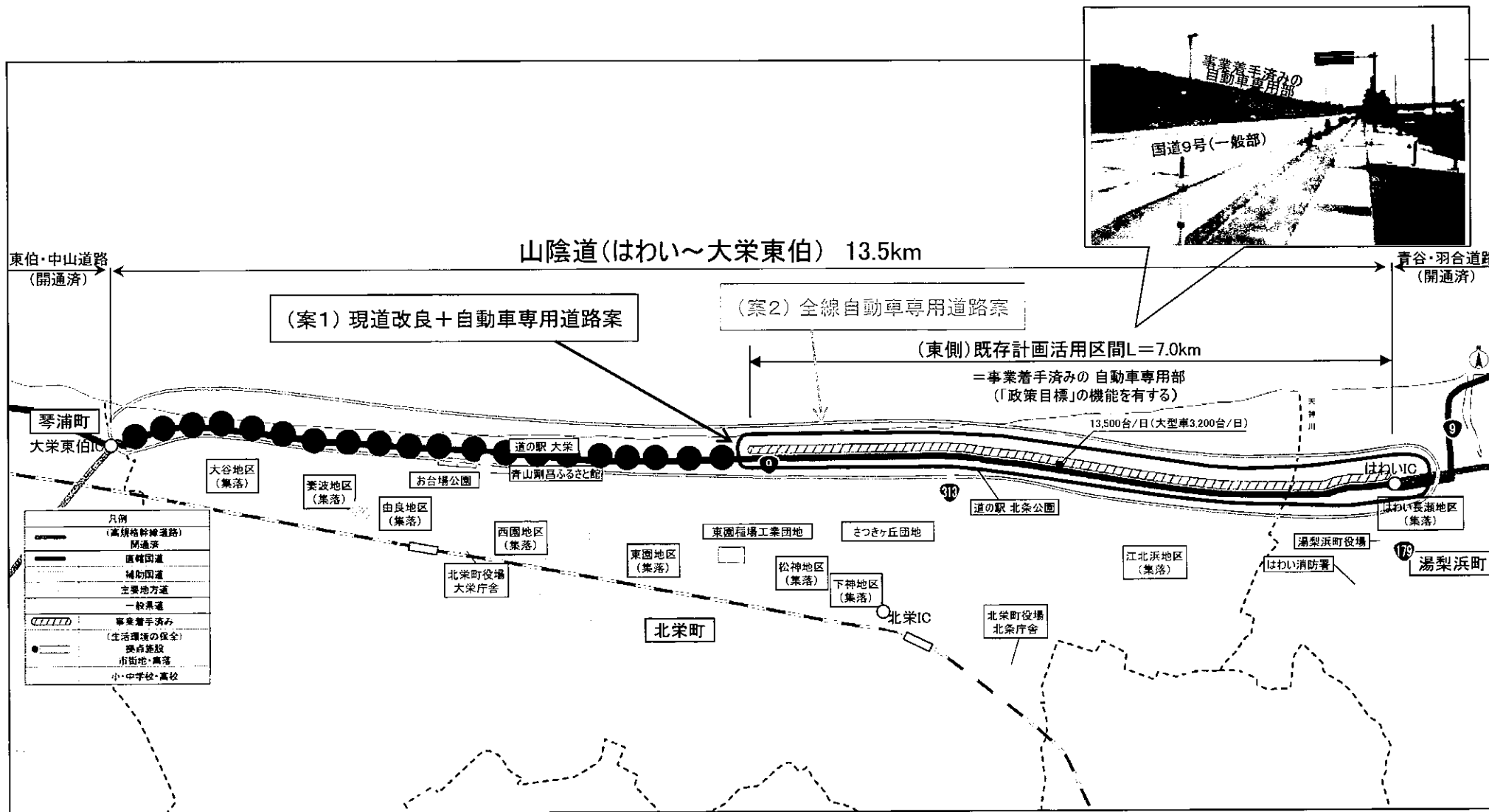
2 北条道路の計画段階評価手続の進め方

時 期	項 目	内 容
H25. 11	小委員会 (計画段階評価着手)	■地域及び道路の現状と課題の把握 ■政策目標の設定、意見聴取内容の審議
H26. 1～2	第1回意見聴取	■国道9号（はわい～大栄東伯間）に関する現在の問題点や解消すべき点 ■地域の道路に求められる機能・役割について 等
H26. 6	小委員会	○聴取した意見内容の確認 ○道路計画の基本的方向 ・ルート帯案（複数案）の審議
未定	第2回意見聴取	■妥当性の検証 ・ルート帯案（複数案）、インターチェンジに対する意見聴取
未定	小委員会	■聴取した意見内容の確認 ■対応方針（概略ルート、構造）（案）の決定
未定	国土交通省本省	■対応方針（概略ルート、構造）の決定と公開

〔参考〕島根県内 山陰道〔福光～江津間〕の計画段階評価は、H24. 9から手続が開始され、10箇月後のH25. 7に対応方針が決定（2回目の小委員会からは約5箇月）。

対策案の概要

- 各対策案の概要と各評価項目における整備効果を図と比較表を用いて説明。



対策案の評価項目

● 各対策案の概要と各評価項目における整備効果を図と比較表を用いて説明

山陰道（はわい～大栄東伯） 複数案の比較・評価（ルート帯の検討）

評価の項目		(案1) 現道改良+自動車専用道路案	(案2) 全線自動車専用道路案	
ルート帯の概要		既存計画活用（自動車専用道路）と現国道9号（一般道）を改良する案 既存計画区間は80km/hで走行できる自動車専用道路 現国道9号改良区間は60km/hで走行できる一般道	全線自動車専用道路とする案 80km/hで走行できる自動車専用道路	
「政策目標」に対する評価	安全性の向上	事故が発生する可能性・危険性	事故が発生する可能性がやや高い	事故が発生する可能性は低い
		長距離交通と地域内交通の混在具合	混在する	分離される
	救急医療機関への速達性、確実性の確保	琴浦町から鳥取県立厚生病院（倉吉市）までの所要時間	少し短縮する	案1と大きな違いはない
	産業の活性化	境港へのアクセス時間（鳥取市～境港まで）	少し短縮する	案1と大きな違いはない
		企業誘致への貢献（工業団地（東園稲場団地）から最寄りICまでの距離）	現況と同じ	最寄りのICまでの距離が短縮
	産業・物流交通の走行性	交差点が残るため走行性は劣る	自動車専用道路による別線となるため走行性は良い	
	観光振興の促進	主要観光地への立寄りやすさ	現況と同じ	最寄りのICまでの距離が短縮
通行止め時に機能するネットワークの確保	通行止めの可能性や迂回の必要性	県道（生活街路）への迂回が必要となる	国道9号と自動車専用道路の相互に迂回利用が可能	
「ルート帯選定にあたって考慮すべきポイント」に対する評価	生活環境・自然環境の保全・調和	日本海の眺望等、自然環境への影響	少ない	案1より多い
	集落・市街地・主要施設等とのアクセス	集落や市街地部・主要施設などへの連絡性	現況と同じ	最寄りのICまでの距離が短縮
	広域ネットワークとしての対応	長距離交通と地域内交通の混在具合	混在する	分離される
		交差点等による停止・減速の可能性	一般道のため沿道からの出口（交差点）は残り停止・減速の可能性は残る	交差点がなくなるため、信号による停止はない
		広域ネットワークとしての機能	広域交通ネットワークとしての定速性に劣る	広域交通ネットワークとしての定速性は確保される
	経済性への配慮	工事の期間	短い	案1より長い
		工事による通行規制の多少	多い	少ない
建設に要する費用		約170～220億円	約300～350億円	
	移転が必要となる家屋の数など	存在しない	わずかに存在する	

平成26年度 第1回湖山池会議の概要について

平成26年6月12日
水・大気環境課／河川課

湖山池の汽水湖化等の取組に関連して、6月4日に平成26年度第1回目の湖山池会議を開催しましたので、その概要を報告します。

1 概要

湖山池環境モニタリング委員会の意見が、湖山池会議に直接反映されるよう今年度より湖山池会議に同委員会の日置委員長（鳥取大学農学部教授）に同席いただき、意見・助言を受けることとした。

会議では、今後の基本的な方針（下記2）について関係者で議論し、情報共有するとともに、引き続き汽水化に取り組むことを確認した。また、日置委員長から「短期の対症療法を実施しつつ、中長期の取り組みを先延ばしすることなく、並行して考えていくべき。」との意見とともに、この方針で進めることについて了解を得た。

2 今後の汽水化事業の取組に係る基本的な方針

区分	内容
短期 今年度～来年度	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の塩分管理の方針 <ul style="list-style-type: none"> ・夏場に向けて塩分濃度はできるだけ低く管理する。（3,000mg/L 台を目安値とする） ・夏場の貧酸素時等やむを得ず水門開放することが想定されるが、その際もモニタリング委員会の意見を伺いながら対応を検討する。 ○淡水動植物の保全の方針 <ul style="list-style-type: none"> ・適正な塩分管理が可能になるまでの緊急避難措置として、淡水ビオトープ造成を検討する。 ・新たに発見したカラスガイの保全・人工繁殖方法の確立に継続して取り組む。 ○住民への丁寧な現状の説明など <ul style="list-style-type: none"> ・より一層丁寧な現状説明や定期的な意見交換会を開催する。 ・石がま漁の再現に関する地元住民との意見交換と取組への支援を行う。
中・長期 5～6年 10年超	<ul style="list-style-type: none"> ○湖山池将来ビジョンの点検・修正 <ul style="list-style-type: none"> ・短期的な取組の結果や状況を湖山池周辺の住民を含む市民に示し、ビジョンの点検や修正等を行う。 ○水環境の管理方法の再検討 <ul style="list-style-type: none"> ・短期的な取組の結果や状況を踏まえ、より良い方策の模索・検討を継続して行う。 → 汚濁負荷の低減、流動性の確保、水循環のあり方について再度検討する。

【日置委員長意見】

- ・汽水化後2年間の結果を見ると、ヒシ・アオコ減少などの好転した面もあったが、汽水化による弊害も多く確認された。対症療法的な短期の取組実施だけでなく、中長期の取組を先延ばしすることなく、並行して考えていくべき。
- ・今年度も汽水化をはじめたH24年度と同じように塩分上昇しているの、予断を許さない。
- ・汽水化に係る課題への助言にとどまらず、将来的な湖山池の生態系のあり方・姿についても科学的な立場から助言していきたい。

【主な発言及び報告】

- ・自動昇降式水質計により、北側の水深の深い場所では若干の貧酸素塊・塩分躍層を確認している。
- ・南よりの大風が吹く場合、表層が北側へ流され、下層の塩分濃度の高い水塊が南側にせり上がり、南岸の青島観測地点の塩分濃度が一時的に上昇する現象を確認している。
- ・底部の塩分濃度が高くなるということだが、併せてクロロフィル、濁度の状況等も分析して行く必要がある。
- ・昨年7月の魚の大量斃死は、「渦鞭毛藻類」という急激に増殖するタイプの植物プランクトンの発生が一因であったが、今年度は、「珪藻類」「緑藻類」で、なだらかに増殖するタイプを確認している。
- ・シジミ漁獲による湖内からの負荷持ち出し、覆砂によるヘドロからの栄養塩溶出抑制、下水道整備等による生活系流入負荷削減の3点セット（多方面からの水質浄化）を進めるべき。

3 事務局からの報告事項

①塩分濃度の状況	2,930mg/L (6/2時点)
②水門操作の状況	高潮位時の全閉操作等、塩分濃度上昇抑制のための操作を実施（5月以降全閉8回）
③フナ、コイ等の遡上・産卵状況	5/20頃からフナを中心に産卵のために遡上が始まっているが、昨年度のような密集遡上はない。また、キンラン（人工水草）への産卵も確認している。
④シジミ試験操業	6/2から試験操業を開始 → 東部地区スーパーや漁協直売所で販売を開始
⑤湖山池シーズンウォークの開催 (5/11)	例年200名程度の参加が、340名まで増加。ウォーキングコースの整備についてはおおむね好評であった。
⑥住民との意見交換会	テナガエビ、アマサギ、シラウオの姿を見ないと住民意見を報告したところ、栽培漁業センターからは、H25年度調査で生息は確認していること、以前から絶対量が少なくなっていること、2,000～3,000mg/L程度の塩分濃度であれば、生息は可能である旨の報告があった。

鳥取空港のリモート化について

平成26年6月12日
空港港湾課

鳥取空港のリモート化（最寄りの飛行援助センターから飛行場対空援助業務を行うこと）については、受入れの方向で国と協議してきましたが、このたび協議が整ったので、平成27年4月からのリモート化に向け、国と連携しながら必要な整備に着手します。

1 懸念事項の対応状況

(1) 東京5便化などの利便性の確保への影響

⇒・国は7往復／日でも対応出来るとのことであり、平成26年3月に東京5便化となった。

(2) 管制塔撤去に伴う影響

⇒・国が耐震化を行い残すことが決定された。これにより、緊急時の対応が可能となるとともに、全国どこの飛行場援助センター（F S C）からでもバックアップできる体制が整う予定。

(3) 航空機運航の安全性の確保

⇒・国は管制塔に監視カメラ4台（3台は固定式、1台は可動式）を設置して、従来レベルと変わらない滑走路状況の監視体制を整える。
・その映像情報は県にも提供され、滑走路の状況、入退場管理等の監視体制が充実される。

(4) リモート化に伴う中継伝達と空港の人員体制強化

ア 中継伝達

(ア) 空港無線システムの構築

国は、既存の空港無線で、滑走路状況等について直接大阪F S Cと交信できるシステムを構築することにより、空港関係者との相互の情報提供が図られ、情報共有面で従来レベルが維持される。

(イ) 研修

リモート化に関する県職員への習熟研修等は、国の協力を得て実施する。

(ウ) リモート化に伴う機器整備

〔国〕 監視カメラ4台、空港無線機器

〔県〕 灯火操作卓、固定電話

イ 空港の人員体制強化

(ア) 業務内容

- ・ 県が常時滑走路内を注視し、入退場許可、作業確認等を一括管理。
- ・ 大阪F S Cからの連絡（飛行情報提供、航空灯火の点灯指示、滑走路点検報告等）に対し、固定電話で県が対応。

(イ) 人員体制

人員体制の強化に向けて検討中

(ウ) 業務スペースの拡大

現管理事務所西側の鳥取空港ビル平屋部分に2階を増築

※事業主体：空港ビル 増築面積：83㎡

2 今後のスケジュール

〔国〕 現在、管制塔庁舎耐震化工事の契約手続中であり、7月には着手予定

〔空港ビル〕 空港ビル増築工事を6月に設計着手、9月に工事着手し、来年2月中旬に完成の予定

〔県〕 来年2月に機器設置、3月上旬に職員研修の予定

大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」 境港初寄港について

平成26年6月12日

観光戦略課

空港港湾課

境港管理組合

境港に寄港するクルーズ客船としては過去最大となる「ダイヤモンド・プリンセス」が6月16日(月)に初寄港します。

1. 「ダイヤモンド・プリンセス」 寄港

(1) 船舶の概要

総トン数	116,000 トン
全長	290 m
乗客定員	2,670 人



(2) 運航会社 プリンセスクルーズ社(米)

(3) クルーズツアー概要

・日本海の歴史ある3港(金沢、舞鶴、境港)を訪ねる「日本の古都めぐりと釜山10日間」

・境港出入港日時 6月16日(月) 午前6時入港 午後6時出港

横浜(6/11) → 金沢 → 舞鶴 → **境港** → 釜山 → 鹿児島 → 横浜(6/20)

日本周遊と釜山 9泊10日

・乗客 約2,100人(日本人700人、外国人(豪州、米国、香港、カナダ、英国など)1,400人)

(4) 寄港地観光ツアー(オプションツアー) 4コース

- ・とっとり花回廊と水木しげるロードコース、
- ・出雲大社、日御碕灯台と宍道湖(車窓)コース
- ・松江城、堀川遊覧船と足立美術館コース
- ・足立美術館コース

(5) 歓迎行事など

- ・郷土芸能披露、絵はがきの無料配布、着ぐるみでの出迎え・お見送り。
- ・今回の寄港にあわせ、昭和南埠頭内に固定式Wi-fiルーターを設置するとともに、通訳ボランティアを配置します。

2. 今年度の寄港実績

・4月29日	カレドニアン・スカイ(米)	: 4,200トン	乗客	97名
・5月3日	カレドニアン・スカイ(米)	: 4,200トン	乗客	104名
・5月16日	カレドニアン・スカイ(米)	: 4,200トン	乗客	108名
・5月23日	コスタ・ビクトリア(伊)	: 75,166トン	乗客	946名

3. 今後の寄港予定

今年度は今後10数回程度クルーズ船が寄港予定。

・ダイヤモンド・プリンセスは、7月に2回、9月に1回寄港予定。

・秋頃にはマリナー・オブ・ザ・シーズ(138,279トン 定員3,114名)が寄港予定。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

【新規分】

県土整備部

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	摘要
道路建設課 (西部総合事務所 米子県土整備局)	国道181号(岸本バイパス)改良 工事(1工区)(社会交付金)	西伯郡 伯耆町 坂長	(有)平井工業 代表取締役 平井 茂見	170,640,000円 (予定価格) 190,113,480円	平成26年5月15日 ～ 平成27年1月22日	平成26年5月14日	制限付 一般競争入札 (16社)
空港港湾課 (鳥取空港管理事務所)	鳥取空港滑走路改良工事(舗装)	鳥取市 湖山町 西四丁目	鳥取空港滑走路改良工事(舗装)NIPPO・ やすなが工事特定建設工事共同企業体 (株)NIPPO 鳥取統括事業所 所長 森川 康明 やすなが工事(株) 代表取締役 河上 喜巳	388,800,000円 (予定価格) 389,984,760円	平成26年5月28日 ～ 平成26年12月1日	平成26年5月27日	制限付 一般競争入札 (1社)